

第16回 古代武器研究会

日時 2019 (令和元) 年 12 月 7 日 (土) 13:30 ~ 17:45

8 日 (日) 9:00 ~ 15:00

会場 山口大学大学会館 (吉田キャンパス)

(〒753-8540 山口市吉田 1677-1 山口大学人文学部)

主催 古代武器研究会・山口大学考古学研究室

参加費 無料 (資料代実費)

弥生時代後半期における金属製武器の普及と防御施設

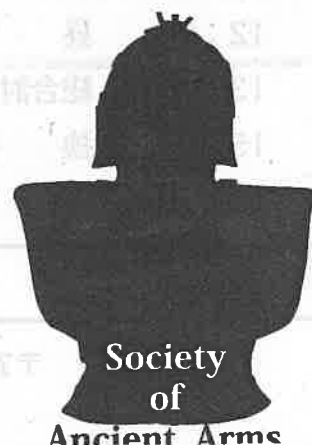
本研究会ではこれまで古墳時代を中心に広く東アジア的な視点から武器や軍事のありかたにせまってきました。しかし、日本列島における武器の体系的な発達、弥生時代にさかのぼります。そこで今回は、日本列島における初期武器の動態とその「活躍」の場である防御施設の関係について、弥生時代後期から終末期を中心にせまっていきたいと考えています。

弥生時代開始期において、武器はまず石器として登場します。弥生時代中期になるとそこに金属製の短剣、戈、ヤリ、ヤジリが加わり、多種多様な武器が展開します。それが弥生時代後期になると、それらは金属製に収斂し、器種的にも戈が欠落していくなどの変化がみられるようになり、一方で東日本をふくむ広い範囲にその分布を拡大していきます。武器は権力ソースの一つとして重要な軍事力の構成要素であり、主要副葬品であるという点では共通する葬送イデオロギーを採用するネットワークの反映です。さらに、その贈与や所有が稀少な財の贈答によるものであるならば、それは政治的な経済活動の結果となるでしょう。つまり、弥生時代後期以降における金属製武器への収斂は、軍事や経済活動、そして価値観の単系化を示すといえます。

一方で、同時期における防御施設を有する居住空間や軍事施設の展開は複雑です。居住域を高台に立地させたり、周囲に大溝や柵列をめぐらせたりして、他集団との区分やアクセスを遮断する方式自体は弥生時代開始期からみられます。ただし、弥生時代中期の実態や開始期からの連続性は、地域ごとに異なり、その具体像も地域によって多様です。今回の研究会では地域をこえた普遍的な基準を模索するのではなく、地域ごとにイメージされている典型的な事例をもちより、それらが防御集落として認定されてきた学史的背景をふくめて紹介していただくことをとおして、地域ごとのイメージの異同を比較することにより、その問題点を共有することを目指します。

また、弥生時代中期末から後期以降に、あらたに高所立地の「集落」が各地で登場し、防御施設を有する「集落」が西から東へ拡大していくというイメージは広く共有されています。そして、この拡大と併行して、先に述べた金属製武器への収斂という広域での均質な変化が生じており、さらにそれらを副葬する厚葬墓を上位とする階層的な墓制が各地で続々と成立していきます。

今回の研究会では、このような前方後円墳出現前夜の権力形成段階における防御する人間集団の単位と、武装や武威により結びつく人間の単位の関係とその変化を明らかにすることを目指します。



古代武器研究会

第16回 古代武器研究会

弥生時代後半期における金属製武器の普及と防御施設

12月7日(土)

- 12:30 開場・受付開始
- 13:25 挨拶
- 13:30 趣旨説明 寺前直人(駒澤大学)
- 14:00 研究報告① 「九州地方における鉄製武器の普及—刀剣・戈・有孔鏃を中心として—」
立谷 聡明(唐津市教育委員会)
- 14:55 休憩
- 15:10 研究報告② 「九州地方における防御集落の展開
—弥生集落・社会からみた「たたかい」の実像—」
山崎 頼人(小郡市埋蔵文化財調査センター)
- 16:05 休憩
- 16:20 特別講演 「弥生時代の鉄器化、防御集落、武器所有を考える」
禰宜田 佳男(大阪府立弥生文化博物館)
- 17:45 事務連絡・移動
- 19:00 懇親会(湯田温泉:防長苑)

12月8日(日)

- 9:00 研究報告③ 「近畿・中四国における鉄製武器の普及と防御集落」
ライアン・ジョセフ(岡山大学)
- 9:55 研究報告④ 「日本海沿岸地域における鉄製武器の普及と防御集落
—船載大型武器の受容と遺跡群の形成—」
林 大智(公益財団法人石川県埋蔵文化財センター)
- 10:50 休憩
- 11:05 研究報告⑤ 「関東地方における鉄製武器の普及と防御集落
—刀剣類と環濠集落を中心に—」
杉山 和徳(白岡市教育委員会)
- 12:00 昼食
- 13:00 総合討議 【進行】 寺前直人
- 15:00 挨拶
- 15:10 終了

会場 山口大学大学会館

〈連絡先〉 〒753-8540 山口市吉田 1677-1 山口大学人文学部 田中 晋作
TEL. 083-933-5238 E-mail s-tanaka@yamaguchi-u.ac.jp

交通・宿泊のご案内

日時 2019 (令和元) 年12月 7日 (土) 13:30~17:45
8日 (日) 9:00~15:10

会場 山口大学学生会館
(〒753-8540 山口市吉田1677-1 (吉田キャンパス))

交通機関

○新幹線利用: JR山陽新幹線「新山口」

【JR利用】 山口線「新山口」—「湯田温泉」(240円) 駅から大学まで徒歩25分

【往路】 「新山口」(11:53発) → 「湯田温泉」下車(12:12着)

「新山口」(12:25発) → 「湯田温泉」下車(12:44着)

「新山口」(13:33発) → 「湯田温泉」(13:52着)

【復路】 「湯田温泉」(15:58発) → 「新山口」(16:16着)

「湯田温泉」(16:25発) → 「新山口」(16:44着)

【バス利用】 「新山口駅」—「湯田温泉」(乗換)「湯田温泉通」—「山口大学」

※「新山口駅」—「山口大学前」の土日運行は廃止となりました。

【往路】 防長交通バス「県庁前」or「スポーツの森前」行き(520円)

「新山口駅」在来線口(12:20発) → 「湯田温泉」下車(12:47着)

「新山口駅」在来線口(12:40発) → 「湯田温泉」下車(13:03着)

「新山口駅」在来線口(13:00発) → 「湯田温泉」下車(13:23着)

防長交通バス「山口リハビリ病院」行き(200円)

「湯田温泉」(12:50発) → 「山口大学前」(12:56着)

中国ジェイアールバス「山口大学」行き(200円)

「湯田温泉通」(12:57発) → 「山口大学」下車(13:09着)

「湯田温泉通」(13:36発) → 「山口大学」下車(13:48着)

【復路】 中国ジェイアールバス「防府駅」行き(200円)

「山口大学」(15:55発) → 「湯田温泉通」下車(16:05着)

「山口大学」(16:20発) → 「湯田温泉通」下車(16:30着)

防長交通バス「新山口駅」行き(520円)

「湯田温泉」(16:20発) → 「新山口駅」在来線口下車(16:51着)

「湯田温泉」(16:40発) → 「新山口駅」在来線口下車(17:03着)

○飛行機利用:「山口宇部空港」

【バス利用】 「山口宇部空港」—「新山口駅」

【往路】 防長交通バス or 中国ジェイアールバス「新山口駅」行き(890円)

「山口宇部空港」(9:15発) → 「新山口駅」下車(9:45着)

「山口宇部空港」(9:50発) → 「新山口駅」下車(10:20着)

【復路】 防長交通バス or 中国ジェイアールバス「山口宇部空港」行き

「新山口駅」(17:30発) → 「山口宇部空港」下車(18:00着)

「新山口駅」(18:35発) → 「山口宇部空港」下車(19:05着)

○夜行高速バス利用

【関西方面】 防長交通バス「カルスト号」

〔往路〕「京都駅八条口」(20:20発) → 「大阪駅前」(21:45発) → 「三宮バスターミナル」(22:40発) → 「山口湯田温泉」(翌日 8:35着)

〔復路〕「山口湯田温泉」(19:45発) → 「三宮バスターミナル」(翌日 5:35着) → 「大阪駅前」(翌日 7:00着) → 「京都駅八条口」(翌日 8:08着)

【東京方面】 防長交通バス「萩エクスプレス」

〔往路〕「東京駅八重洲南口」(19:30発) → 「山口湯田温泉」(翌日 8:59着)

〔復路〕「山口湯田温泉」(18:50発) → 「東京駅日本橋口」(翌日 8:24着)

公共の宿

○防長苑 (市町村職員共済組合) 山口市熊野町4-29 ☎083-922-3555

・発表者等関係者宿泊施設・懇親会場(懇親会参加者は1泊朝食付6,000円)。

・この施設をご利用いただくのがもっとも便利です。

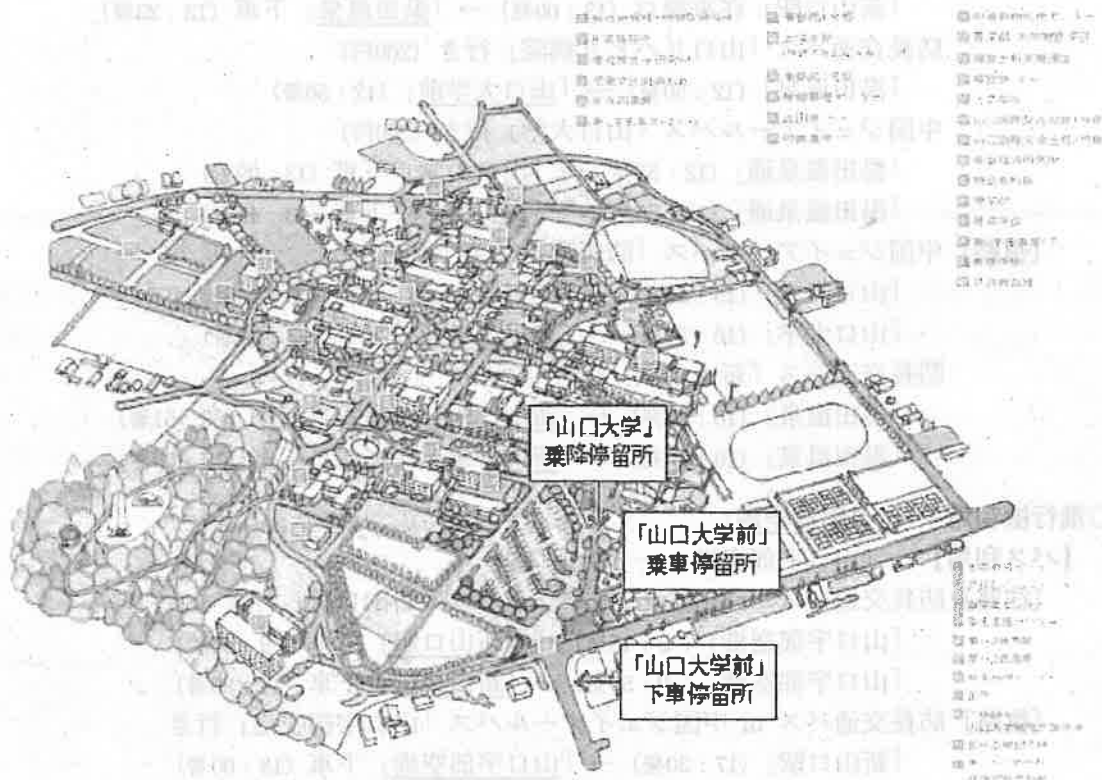
ただし、シングルが少ないため、複数名での宿泊をお勧めします。

○セントコア山口 (公立学校共済組合) 山口市湯田温泉3-2-7 ☎083-922-0811

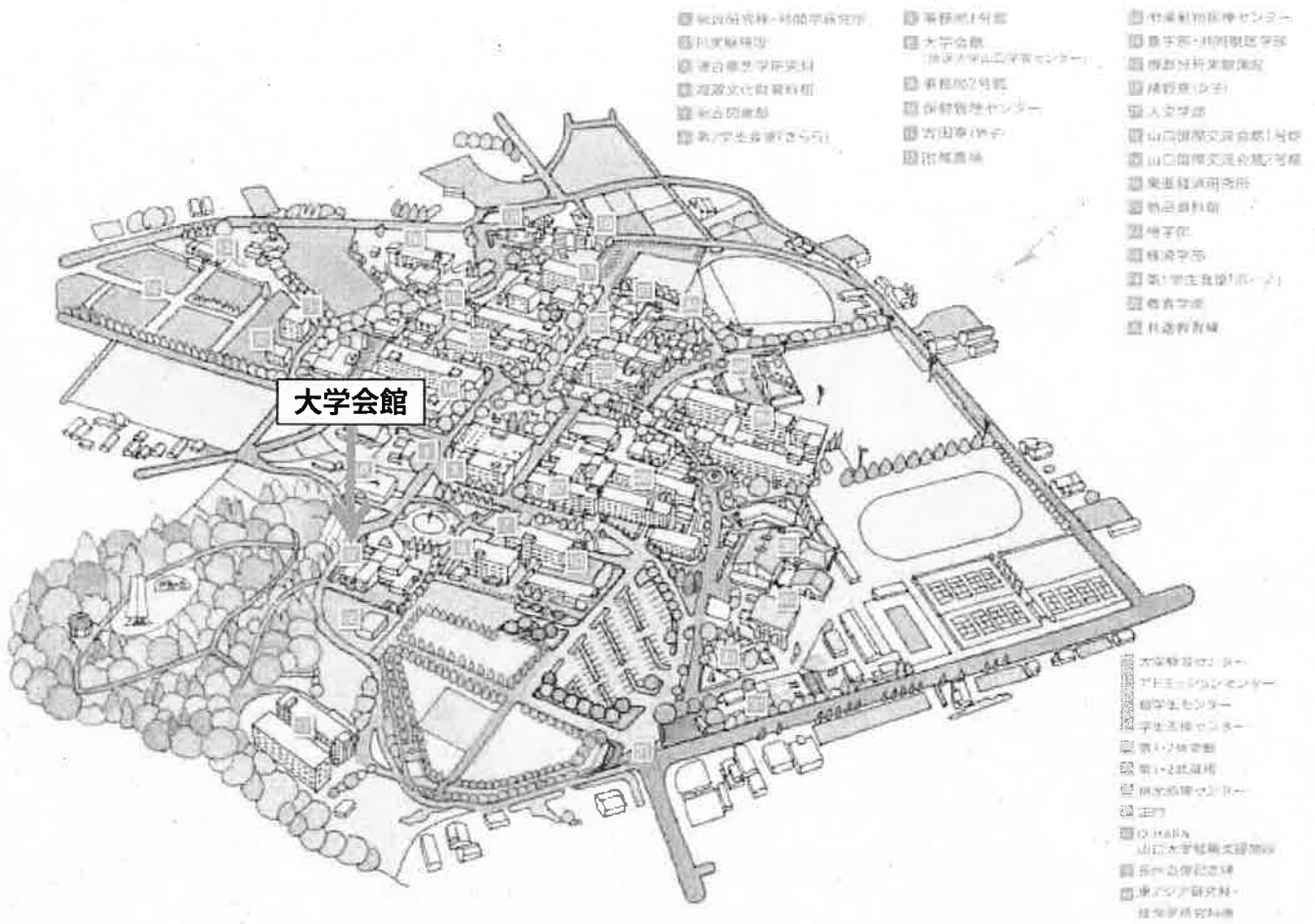
○KKR山口あさくら (国家公務員共済組合) 山口市神田町2-18 ☎083-922-3268

○翠山荘 (地方職員共済組合) 山口市湯田温泉3-1-1 ☎083-922-3838

※上記以外にもビジネスホテルなど多数あります。



バス停のご案内



山口大学吉田キャンパス構内図



防長苑 (懇親会会場) 地図